

# 働く者軽視の企業に未来なし

朝日新聞「声」(11月13日)より

N 1 1 2 0 0 9 . 1 1 . 2 0 J R 東海 労 東 二 運 分 会

東海ユニオン組合員のみなさん！

こんな「声」がありました⇨他社事ではありません

朝日新聞読者からの日本航空、JR西日本、日本郵政経営陣に対する「働く者軽視の企業に未来なし」という忠告の投稿がありましたので紹介します。

『日本航空、JR西日本、日本郵政。奇しくも「官から民」を代表する大企業がそろって、経営のあり方やその姿勢を問われて連日のようにマスコミを賑わせている。事情はそれぞれ異なるが、いずれも根幹には経営陣の自己保身、企業の社会的責任を忘れた利益至上主義がある。そして映画「沈まぬ太陽」に描かれているように、各社とも複数の労働組合がある。宝塚線脱線事故の際にJR西日本の「日勤教育」が取り上げられたように、各社の労務政策には問題が多い。労働組合が複数存在するのは、組合敵視の表れである。利益至上主義と組合敵視策が企業をおかしくするのは、この3社には限らない。労働者を消耗品の道具と同じように考える企業は伸びない。上場企業の9月中間決算では、自動車や電機など主要製造業で世界同時不況で落ち込んだ業績の底打ち感が鮮明になったが、猛烈なリストラで利益を生み出しているのが実情だという(6日経済面)。だが、日本を代表するような企業が労働者を使い捨て、ワーキングプアやホームレスを生み出すことで得た業績回復を恥じないで良いのか。この国の経営者たちに、働く者を大切にし、最大の財産と考える経営理念を私は求めたい。』(下線は筆者)

まさに そのとおりで 的を得た「声」だと思います

残念ながら下線部分はJR東海にも共通します。「複数の労働組合」「労務政策」「組合敵視」は、還流など命令と服従・規律と忠誠心の労務政策・社員管理であり、「消耗品の道具」は、一方的休日勤務や年休が流れても平気な私たちの職場と同じです。私たちも言いましょ。社員を大切にし、社員を最大の財産と考える経営理念を私たちは求める、と。第二のJR西日本にしないために

「組合も 会社も聞かぬ 私の声」 C D 頑爺